

1. 発表内容

・市村（授業者）の発表：

比例の関係を見る見方には、対応する数を動的な連続量として見る見方や、数の集合から集合への対応として見る見方があり、その両方ができるように考え直した指導案を発表した。

・大橋の発表：

「比例」に関する単元の 6 社すべての教科書分析を行い、そこで明らかになったことを発表した。

・早田の発表：

前回の議論で、中学生にとって、比例を動的な見方として見る見方が乏しいという見解に至ったので、動的な見方ができる定義の仕方など、動的な見方の養い方について発表した。

・新居の発表：

比例の事象の取り上げ方には、三つあり、校種・学年間では、それぞれどのように比例を取り上げているのかを発表した。

2. 討議内容

はじめに、教科書のカリキュラムの構成から、4 年では、「変わり方」、5 年では、「比例」、6 年では、「比例・反比例」という流れになっているが、なぜ、わざわざ間の 5 年生で「比例」を学習するのか、という議論になった。5 年生の単元に「比例」を置く理由は何か。これを明らかにすることが、今後の課題になってくるだろう。

次に、比例関係を動的な見方として見るができるように、比例の定義を 2 数の関係全体が比例として見るができる『常に』という言葉を用いるのは、どうかという議論になった。

最後に、比例の事象の取り上げ方には、3 種類あり、その中でも、「論理的に比例関係であることが容易に導かれる場合」というのは、主に 5 年生で取り上げられる。しかし、指導案の導入部分で取り扱われている例（パラシュート上がる距離）は、これに適切であるかどうかという議論になった。

3. 今後の課題

今回の議論から明らかになった今後の課題は、以下の内容である。

・5 年生で『比例』を扱う理由は何か。

・比例関係をより動的な見方として見るができる定義の仕方とは。

これらを明らかにする必要があると考えられる。